

子どもの日本語教育研究会第6回大会企画パネル

多文化の子どもたちの育ち・キャリアー群馬県大泉町からの報告をもとに

議論の視点として…

(1) 支援の場の役割

(2) 隙間・切れ目のない支援に向けて

(3) 保護者の参加に向けて

内海 由美子 (山形大学)

yutsumi@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

「生活・学習支援STUDY SPOT」のとりくみ

- ・自分を見てくれる大人がいる、信頼できる大人がいる

安心して過ごせる→自己肯定感

- ・相談相手やロールモデルがいる

自分の進路・将来を考えるきっかけ→将来に対する意欲

- ・多様な大人がいる

多様な表現の獲得→より豊かな感情表現・自己表現

- ・機械的な学習にしない

学習習慣の形成

「わかった」「できた」体験の積み重ね→自信

(1) 支援の場の役割

「外国人保育士の役割」

- ・媒介者→安心感、自己肯定感、適応促進
- ・ロールモデル

(2) 隙間・切れ目のない支援に向けて

外国籍の子どもに必要な支援

<教育的な支援>

- ・日本語習得支援と教科学習支援
- ・非認知能力（社会情動的スキル）の習得

<居場所づくり>

<福祉的な支援ー隙間・切れ目のない支援>

- ・様々な制度、機関や場所、人をつなぐ

(1) 支援の場の役割

非認知能力（社会情動的スキル）について（OECD2018）

学力テストでは測れない、個人の幸福と社会の進歩に不可欠な能力。学力と補完関係にある。

目標の達成では…忍耐力、自己抑制、目標への情熱

他者との協働では…社交性、敬意、思いやり

感情のコントロールでは…自尊心、楽観性、自信

(1) 支援の場の役割

学力と非認知能力（社会情動的スキル）（日本財団2018）

「生活習慣、学習習慣、思いを伝える力といった非認知的な能力に、学力と強いプラスの相関関係がある」(p.46)

「学力の格差を解消するためには、まずは非認知能力を養うこと、そして、特に非認知能力が発達しやすい小学校低学年以前に支援を行うことが重要と言える」(p.47)

*年齢が上がっても向上させられる(OECD2018:61)

非認知能力（社会情動的スキル）を促進する学習環境

(OECD2018)

家庭

学校

(2) 隙間・切れ目のない支援に向けて

地域社会のインフォーマルな学習 STUDY SPOT

不利な状況におかれた子どものための介入プログラム

子ども食堂、就労支援、ひとり親家庭に対する支援等

どうやって保護者を巻き込む？ (3) 保護者の参加に向けて

保護者の関与 (OECD2011)

(1) 学校の活動について話し合ったり、宿題を手伝ったりするなど
家庭での支援

(2) 親と学校の面談や学校の活動への参加など学校とのコミュニケーション

保護者の関与を阻むのは…

(3) 保護者の参加に向けて

- ・言語上の障壁：日本語の使用に自信が持てない
- ・外国出身であるということに自信が持てない
- ・教育制度に関する知識不足
- 「関わりたいのに自信がない、できない」
- 「でも親として子どもの教育に関与したい」「決定権を持ちたい」
- ・親の労働状況
- ・家庭の資源と学習環境
- 家庭支援の視点
- 情報弱者にしない
- 保護者の声を聞く
- 園・学校との連携・協働を提案する

子どもの日本語教育研究会第6回大会企画パネル

多文化の子どもたちの育ち・キャリアー群馬県大泉町からの報告をもとに

議論の視点として…

(1) 支援の場の役割

(2) 隙間・切れ目のない支援に向けて

(3) 保護者の参加に向けて

子どもの日本語教育研究会第6回大会企画パネル

多文化の子どもたちの育ち・キャリアー群馬県大泉町からの報告をもとに

参考文献

経済協力開発機構OECD(2011)『移民の子どもと格差』明石書店

経済協力開発機構OECD(2018)『社会情動的スキルー学びに向かう力』明石書店

日本財団(2018)「家庭の経済格差と子どもの認知能力・非認知能力格差の関係分析」

https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/01/wha_pro_end_07.pdf

咲間まり子監修(2020)『保育者のための外国人保護者支援の本』かもがわ出版